

「上に立つ権威に従うとは」

導入：

OICで、礼拝のメッセージを、聖書からさせていただけることを感謝しております。コロナの波が少し下火になってきて、日本では、守られた平穏な中で新しい年を迎えることができたようですが、ロシアによるウクライナとの戦争が、凍えるような寒い中で続いています。ロシアでは「戦争反対」と紙に書いてそれを公に示しただけで逮捕されてしまうということですが、クリスチャンとして、戦争が間違っていると思うなら、神様は、私たちがどう行動することを望んでおられるのでしょうか。世の中の支配者たちが間違ったことをした場合、私たちは、クリスチャンとして、どう対応すればいいのでしょうか。ごいっしょに聖書を見ていきましょう。

祈り：

父なる神様、私たちは、あなたの御前におります。あなたを礼拝し、あなたのみことばを聞くためです。私たちにお語りください。そして私たちが地上であなたの御心に沿って歩むことができるように。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

ローマ 13：1-5 (新改訳聖書 2017)

- 1 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです。
- 2 したがって、権威に反抗する者は、神の定めに従うのです。逆らう者は自分の身にさばきを招きます。
- 3 支配者を恐ろしいと思うのは、良い行いをするときではなく、悪を行うときです。権威を恐ろしいと思いたくなければ、善を行いなさい。そうすれば、権威から称賛されます。
- 4 彼はあなたに益を与えるための、神のしもべなのです。しかし、もしあなたが悪を行うなら、恐れなければなりません。彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。彼は神のしもべであって、悪を行う人には怒りをもって報います。
- 5 怒りが恐ろしいからだけでなく、良心のためにも従うべきです。

1. 上に立つ権威は、神が立てられた 13：1-2

ローマ 13：1

1 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです。

上に立つ権威とは、何でしょうか？ 国の政府、(当然ですね) 地方自治体、警察や役所など。私たちは彼らが定めた法律や条例も尊重して、従うべきです。私たちの職場では、上司や管理者に従うはずですが、そして、そこで定められた決まりにも従うべきです。この世には、完全な支配者は一人もいません。力を握った者が、程度の差こそあれ、他の人を思い通りに支配していきます。嘘やごまかしが、しばしば行われます。しかし、聖書は言います。「**神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです。**」 仮に悪い政府であったとしても、無政府状態よりは良いわけです。

もし、クリスチャンが、「私たちは神に従います。だからこの世の権威に対しては、それほど従う必要はない。」としますと、私たちは、聖書の教えから外れているのです。

ローマ13：2

2 したがって、権威に反抗する者は、神の定めに従うのです。逆らう者は自分の身にさばきを招きます。

ローマ人への手紙が書かれたのは、紀元56年頃。この当時、ローマの皇帝はネロ。彼は、紀元54年から68年まで支配しました。ネロ帝は暴君で有名です。自分の母親を殺し、妻には自殺を命じました。多くの元老院議員も処刑されました。彼が大好きだったのは、競技場に人を無理やり集めて、リサイタルを開き、自分の歌を聞かせ、自分が作った詩を朗読し、豎琴を奏でて、ワンマンショーをすることでした。自分の軽率さゆえに、帝国の財政は枯渇してしまいました。紀元64年には、ローマの大火事が起こり、市の大半が焼失してしまいます。ネロが放火をしたという疑いがかかります。そこで彼は、キリスト教徒のせいにして、迫害を始めます。聖書ではありませんが、他の文献によれば、使徒ペテロと、パウロも、このときに殉教したようです。そのような状況にあっても、聖書は、「上に立つ権威に従うべきです」と語ります。

では、神ご自身は、支配者や、権威を持つ者に対して、どのように対応されるのでしょうか。

例1 ユダ王国の王マナセ (BC697～642)

マタイ1章の、イエス・キリストにつながる系図の中で、最悪の王。

彼は何をしたのでしょうか。

列王記II 21章

1 マナセは、十二歳で王となり、エルサレムで五十五年間、王であった。

永い期間、王位に着きます。

3 彼は父ヒゼキヤが打ち壊した高き所を築き直し、イスラエルの王アハブがしたように、バアルのためにいくつもの祭壇を築き、アシェラ像を造り、天の万象を拝んでこれに仕えた。

マナセは、敬虔な父親であるヒゼキヤ王が打ち壊した、偶像を礼拝する場所を再建します。そして、さらに多くの偶像礼拝の場所を作ります。これは神の前に重大な罪です。

6 また、自分の子どもに火の中を通らせ、ト占をし、まじないをし、霊媒や口寄せをし、主の目に悪であることを行って、いつも主の怒りを引き起こしていた。

16 マナセは、ユダに罪を犯させて、主の目に悪であることを行わせただけでなく、咎のない者の血まで多量に流したが、それはエルサレムの隅々に満ちるほどであった。

彼は、罪のない多くの人々を殺してしまいます。

神は、マナセ王に対して、どのように対応されたのでしょうか？

歴代誌II 33：10-13

10 主はマナセとその民に語られたが、彼らは耳を傾けなかった。

11 そこで主は、アッシリアの王の配下にある軍の長たちを彼らのところに連れて来られた。彼らはマナセを鉤で捕らえ、青銅の足かせにつないで、バビロンへ引いて行った。

12 しかし、彼は苦しみの中で彼の神、主に嘆願し、父祖の神の前に大いにへりくだり、

13 神に祈ったので、神は彼の願いを聞き入れ、その切なる求めを聞いて、彼をエルサレムの彼の王国に戻された。こうしてマナセは、主こそ神であることを知った。

この後、神の前に悔い改めたマナセは、自分が築いた偶像の祭壇を全部取り除いて、主だけを神として礼拝するようになります。

神様は、マナセが悔い改めの心を持っていることをあらかじめご存じて、そして彼を悔い改めに導かれたのに違いありません。

例2 アッシリア帝国の王、センナケリブ（BC705～681）

ユダ王国のヒゼキヤ王の時に、エルサレムを攻めます。センナケリブ王は、使者を遣わして、エルサレムに向かって、叫ばせます。

イザヤ36：18－20

18 国々の神々は、それぞれ自分の国をアッシリアの王の手から救い出したらどうか。

19 ハマテやアルパでの神々は今、どこにいるのか。彼らはサマリアを私の手から救い出したか。

20 これらの国々のすべての神々のうち、だれが自分たちの国を私の手から救い出したか。主がエルサレムを私の手から救い出せるとでもいうのか。

神様は、センナケリブに対してどう対応されたでしょうか。

イザヤ37：36－38

36 主の使いが出て行き、アッシリアの陣営で十八万五千人を打ち殺した。人々が翌朝早く起きてみると、なんと、彼らはみな死体となっていた。

37 アッシリアの王センナケリブは陣をたたんで去り、帰ってニネベに住んだ。

38 彼が自分の神ニスロクの神殿で拝んでいたとき、その息子たち、アデラメレクとサルエツェルは、剣で彼を打ち殺した。彼らはアララテの地へと逃れ、彼の子エサル・ハドンが代わって王となった。

神の前に高慢なセンナケリブに対して、神は、音もなく、打ち砕かれます。十八万五千人の軍勢はペストで死んでしまったようです。なぜなら、古代の歴史かヘロドトスは、この軍勢がねずみに荒らされたと記録に残しているからです。センナケリブはその息子たちによって殺されてしまいます。不名誉な死に方です。

例3 ペルシア帝国の王、キュロス（BC550～530）

エレミヤの預言通りに、イスラエルは70年間のバビロン捕囚から帰還できます。それは、キュロスがバビロニア帝国を滅ぼし、ペルシアを立て、イスラエルを解放したからです。

歴代誌II 36：22

22 ペルシアの王キュロスの第一年にエレミヤによって告げられた主のことばが成就するために、主はペルシアの王キュロスの霊を振るい立たせた。王は王国中に通達を出し、また文書にもした。

しかし、このことが実際に起こる150年ほど前に、すでにイザヤによって予言されていました。

イザヤ45章

1 主は、油注がれた者キュロスについて こう言われる。「わたしは彼の右手を握り、彼の前に諸国を下らせ、王たちの腰の帯を解き、彼の前に扉を開いて、その門を閉じさせないようにする。

神は言われる

2 わたしはあなたの前を進み、険しい地を平らにし、青銅の扉を打ち砕き、鉄のかんぬきをへ

し折る。

4 あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに肩書を与える。

神は、キュロスをその名前と呼んで、ご自分の計画を成就させられます。イザヤは、これを紀元前700年頃に、キュロスが実際にこの預言を成就させるより150年ほど前に預言しています。神はご自分の預言を成就させるために、異国の、まことの神を知らない王たちをも用いられます。

2. 権威者は神のしもべ 13:3-5

ローマ13:3-5

3 支配者を恐ろしいと思うのは、良い行いをするときではなく、悪を行うときです。権威を恐ろしいと思いたくなければ、善を行いなさい。そうすれば、権威から称賛されます。

4 彼はあなたに益を与えるための、神のしもべなのです。しかし、もしあなたが悪を行うなら、恐れなければなりません。彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。彼は神のしもべであって、悪を行う人には怒りをもって報います。

神は、世の支配者たちに、社会の秩序を保つ権威を与えておられます。聖書は、2回、彼らを「神のしもべ」と呼んでいます。「しもべ」と訳されていることばは、ギリシャ語で「ディアコノス」で、教会の執事という意味で使われていることばです。

5 怒りが恐ろしいからだけでなく、良心のためにも従うべきです。

罰せられるのがいやだからではなく、良心のゆえに権威者に従うべきならば、たとえ支配者の怒りが恐ろしいとしても、支配者に従うことが良心に反する場合もある。聖書は、私たちが権威者に従うことから除外される場合について教えています。

支配者に従うべきではない場合

場合1 支配者に従うことが、神に従うことと矛盾する場合

使徒4:18-20

18 そこで、彼らは二人を呼んで、イエスの名によって語ることも教えることも、いっさいしてはならないと命じた。

19 しかし、ペテロとヨハネは彼らに答えた。「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従うほうが、神の御前に正しいかどうか、判断してください。

20 私たちは、自分たちが見たことや聞いたことを話さないわけにはいきません。」

エルサレムの指導者や長老たちはペテロとヨハネに、イエスについて語ってはならないと命じました。しかし、彼らは、「私たちが見たこと、聞いたことを話さないわけにはいかない」と答えました。

使徒5:29

29 しかし、ペテロと使徒たちは答えた。「人に従うより、神に従うべきです。」

神が命じられることと人間の命令がくいちがう場合、私たちは神に従うべきです。

場合2 権威者が間違っている場合

使徒16:37-39

37 しかし、パウロは警吏たちに言った。「長官たちは、ローマ市民である私たちを、有罪判決

を受けていないのに公衆の前でむち打ち、牢に入れました。それなのに、今ひそかに私たちに去らせるのですか。それはいけない。彼ら自身が来て、私たちに外に連れ出すべきです。」

38 警吏たちは、このことばを長官たちに報告した。すると長官たちは、二人がローマ市民であると聞いて恐れ、

39 自分たちで出向いて来て、二人をなだめた。そして牢から外に出し、町から立ち去るように頼んだ。

A. 私たちは、権威や支配者にどの程度誠実に従うべきか？

エペソ 6 : 5 - 7

5 奴隷たちよ。キリストに従うように、恐れおののいて真心から地上の主人に従いなさい。

ここで、「奴隷たちよ」と語られています。この当時、奴隷を使って小規模の生産が行われていました。彼らは人格が認められていましたので、「奴隷」は、今日の「従業員」と似た意味があります。この箇所が教えているのは、キリストに従うように、地上の主人に従いなさいということです。

6 ご機嫌取りのような、うわべだけの仕方ではなく、キリストのしもべとして心から神のみこころを行い、

7 人にではなく主に仕えるように、喜んで仕えなさい。

ペテロ I 2 : 18 - 19

18 しもべたちよ、敬意を込めて主人に従いなさい。善良で優しい主人だけでなく、意地悪な主人にも従いなさい。

意地悪な主人であっても、クリスチャンのしもべは、尊敬を込めて従うようにと教えられています。

19 もしだれかが不当な苦しみを受けながら、神の御前における良心のゆえに悲しみに耐えるなら、それは神に喜ばれることです。

しもべが不公正な扱いを受けても、悲しみに耐えるなら、それは神に喜ばれることです。言い換えると、神の恵みであるということになります。

B. クリスチャンが、支配者や権威のためにできる特別なこと

テモテ I 2 : 1 - 2

1 そこで、私は何よりもまず勧めます。すべての人のために、王たちと高い地位にあるすべての人のために願い、祈り、とりなし、感謝をささげなさい。

2 それは、私たちがいつも敬虔で品位を保ち、平安で落ち着いた生活を送るためです。

これは、パウロが、この世の権威のために祈るべきであると強調している箇所です。最初に、「何よりもまず勧めます」と語っています。とすれば、この祈りは、「これも大切だから、まあ時間があれば祈るべきです」というようなものではない。「まず最初にこの祈りを祈るように勧めます」です。ということは、これは「優先すべき祈り」ということになります。

そして、パウロは、「すべての人のために、王たちと高い地位にあるすべての人のために願い、祈り、とりなし、感謝をささげなさい。」と続けます。

「分かりました、では祈ります。日本の首相を祝福してください。大臣たちも、国会議員も祝福してください。大阪府知事も、大阪市長も祝福してください。はい、祈りました。」こんな間に合

わせた祈りではありません。「すべての人のために、王たちと高い地位にあるすべての人のために願ひ、祈り、とりなし、感謝をささげなさい。」です。もし、ある政治家に問題があれば、私たちはがっかりして、その人を非難するだけでなく、神が私たちに願っておられるのは、その人のためにとりなすことです。そして、問題が解決したら、神に感謝をするべきです。なぜ、私たちはその人たちのために祈るべきなのでしょう？ 彼らは神のしもべだからです。

C. なぜ神は、私たちクリスチャンが、支配者や上に立つ人のために、こんなに祈るように言われるのでしょうか？

ペテロ I 2：9

9 しかし、あなたがたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民です。それは、あなたがたを闇の中から、ご自分の驚くべき光の中に召してくださった方の榮譽を、あなたがたが告げ知らせるためです。

この箇所が語っているのは、クリスチャンは、神が救いに選んでくださった者ですから、神とともに永遠に生きることになるということです。そして、次に、クリスチャンは「王である祭司」と言われています。言い換えると、クリスチャンは、王のような祭司ということです。「クリスチャンは、王である」というのは、クリスチャンは地上では大きな支配権を持っていないとしても、王であるということです。

なぜなら、神は、人間を神のかたちに造られました。そして地上のすべてを支配するようにされました。しかし、人間は、神様に背を向けて、離れてしまいました。そして、私たち人間は、神様と交わりを持ってない者になってしまいました。しかし、キリストが私たちのために死んでくださったので、クリスチャンは、神様と直接の交わりが持てるようになりました。そして神の支配を地上に及ぼすことができるようになりました。私たちクリスチャンは、神様と直接の交わりを持って、天の祝福を地上に届けることができるようになりました。これが、「あなたがたを闇の中から、ご自分の驚くべき光の中に召してくださった方の榮譽を、あなたがたが告げ知らせるため」と言われています。私たちは、天の力、支配を行使することができます。クリスチャンは「王である祭司」です。祭司は、人々のために祈ります。罪のためにとりなしをします。そして、天の恵みと祝福が人々に下されるようにします。クリスチャンは、神の力と恵みを祈りによって、地上で行使することが委ねられています。

地上の指導者、権威者たちは神のしもべです。その人たちが、ただ自分の考えではなく、神のみこころを行うためには、私たちの祈りを必要としています。神様は、私たちクリスチャンに、祈りによって、天の恵みを地上に注ぐ権威を与えてくださっています。

中島總一郎さんの証し

中島さんが中学生のときに、お父さんが事業に失敗して倒産され、3畳一間に、親子7人が生活し、中学時代から、貧しい生活を経験されました。学校の教科書すら買うお金がありません。新聞配達をして家計を助けて、高校生の時は、勉強する時間も場所もない状況で、もらった短い学生服ですずっと通されました。大学時代は、生活の場所もなく、家庭教師先に居候をさせてもらい。夏や冬の休みの間には、少しでも金になるアルバイトに励んでいられました。そのような中で、聖書を読んで、教会に行き、イエス・キリストを信じて、キリストに生涯を委ねる信仰を持たれました。

社会人になってからは、仕事とともに、信仰生活も大切にされて、神様が祝福してくださって、まだ若い時から、会社全体のことを管理したり、経営改革を推し進める責任のある立場を任されていられました。

中島さんが書いておられます。

初めて取締役になったときに、会社の社長から、「教会をとるのか、会社をとるのか」と迫られて、教会をとる行動をしたときに、すべての仕事を取り上げられて、簡単な仕事に追いやられました。でも、何か月も耐えて、社長が神様から罰せられないように、祈りながら、主が解決して下さるのをひたすら待ちました。8カ月経ったときに、社長が、自分の引き出しから出て来た、古い社内報を見つけて、そこに書いてある20年前の私の証しと、コリント第一13章（愛の章）のみことばを目にて、私が若い頃から信仰を基盤に働いてきたことが明確になりました。

これによって、元の立場に戻されて、さらに、より大きな重い仕事を任されるようになって、地方や海外にある子会社の管理をも任されていきました。神様が奇跡を起こして下さったとしか、思えませんでした。

退職後は、聖書学院で学ばれ、伝道の働きを続けていられました。

中島さんが、社長さんのために心から祈られたことを通して、社長や会社が、中島さんが働いていかれるという祝福を受けることができました。そして、さらに中島さんの祈りを通して、神の祝福を受けていかれることができました。

私は、日々、まず日本の首相のために祈って、内閣の大臣から4人、与党と野党の指導者から4人、そしてその他の指導者のために、ニュースなどで知った問題のために祈るようにしています。神様が、私の祈りも聞いてくださっていると感じる事が、あります。

祈り：

父なる神様、あなたは、私たちがイエス・キリストを信じたことで救ってくださいました。そして、私たちをあなたの「王である祭司」としてくださり、あなたの祝福を地上に注ぐことができるようにしてくださいました。私たちが、地上の支配者や上に立つ権威に対しても、イエスに従うように仕えていけるようにしてください。私たちが、すべての人や、高い地位にある人々のために、職場のためにも祈ることができますように、そして、あなたの豊かな祝福を彼らが受けることができ、それぞれの中で正しいことを行い、責任を果たしていくことができますように。あなたの栄光が私たちの祈りを通して表されますように。イエスの御名によって祈ります。